

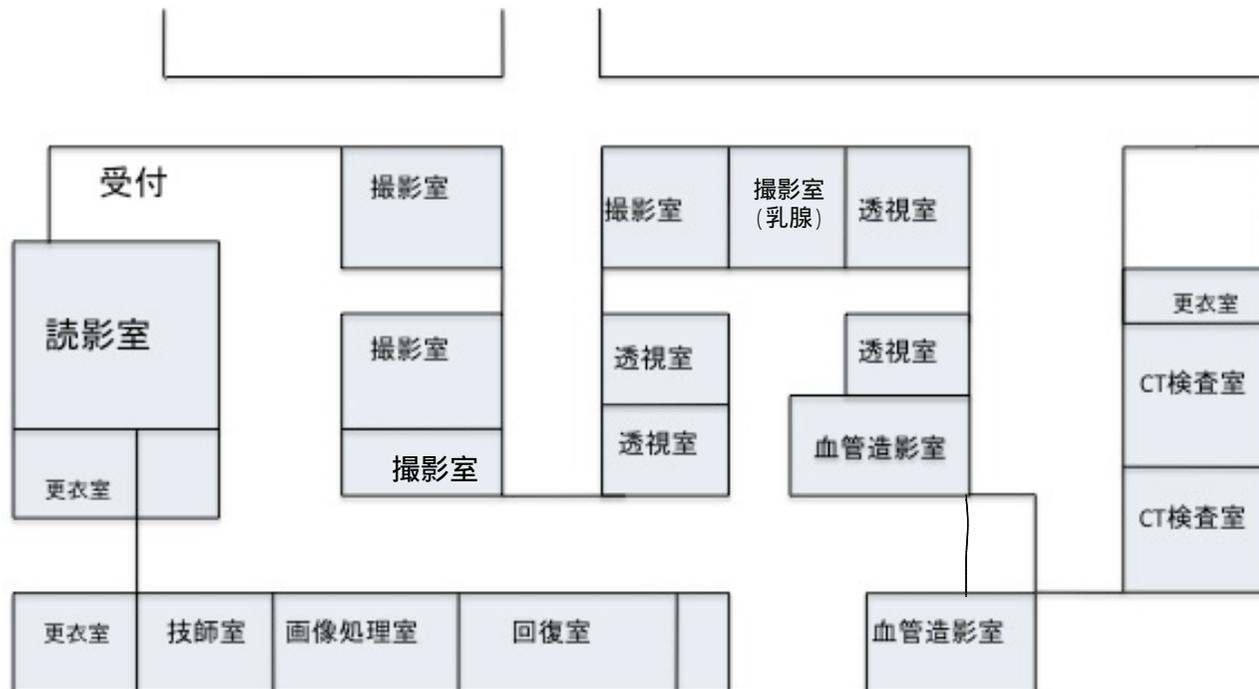
扉のむこう

放射線診断・IVR部

普段は入ることの出来ない扉の向こう。
向こうの部屋はどうなっていて、そこでは何が
行われているのでしょうか。
興味ありませんか？



研修医のくりりんが
案内するよ！



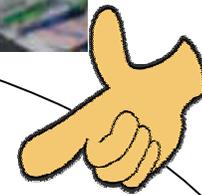
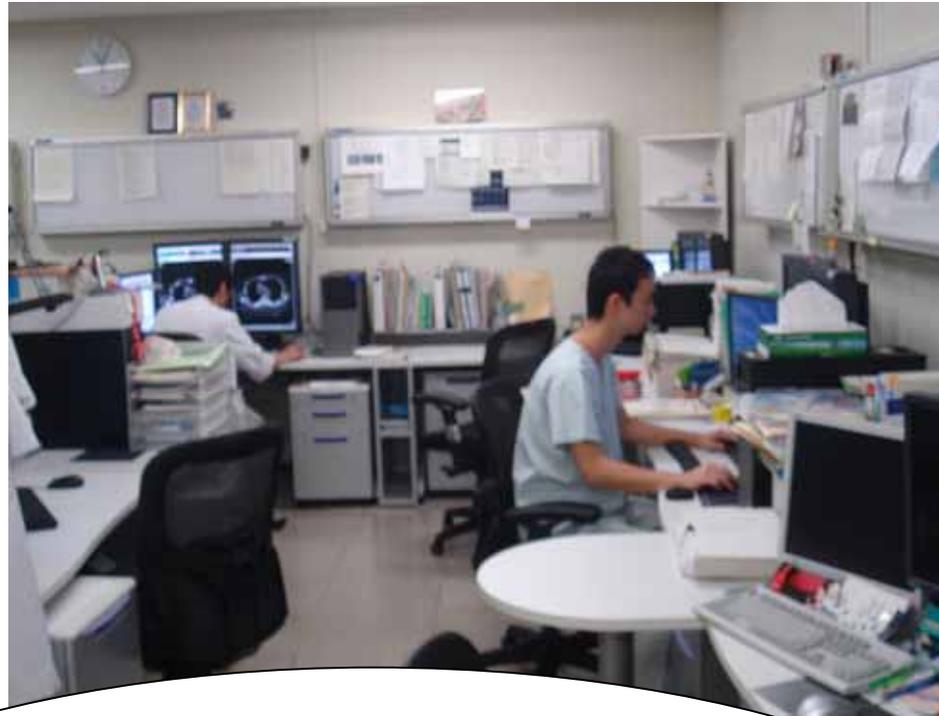
二階の放射線診断・IVR部の中はこんな感じ。
あと、三階にアイソトープ検査室、地下にMR検査室があるよ。





じゃあ、 の扉から覗いて行くよ。





ここは読影室。
読影ってというのは、レントゲンやCT、MR画像から所見を読みとり
診断を下すことだよ。
撮影された画像はすぐにモニターで見ることが出来て、8人の専
門家が夜遅くまで診断しているよ。
部屋がちらかっているのは気にしないでね。





じゃあ、 の扉ね。





ここでは、レントゲンの撮影と、フィルムの整理がおこなわれているんだ。
一枚一枚、変な写真がないかチェックして診察室へ送るんだよ。





放射線診断・IVR部では、15人の放射線技師が働いています。

写真はモニターで見れるのに、フィルムが必要なの？

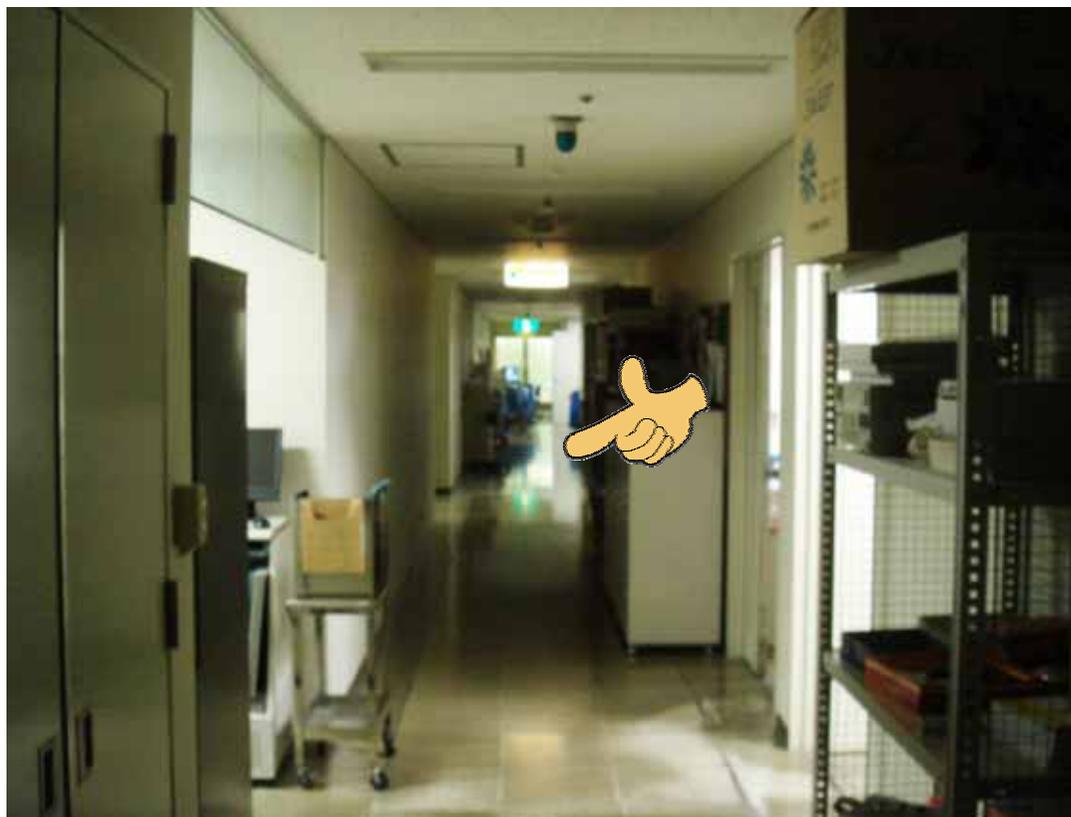
画像がモニターで見れるのは放射線診断・IVR部の中だけで、他の場所は大人の事情で整備が遅れてるんだ。
3月末には、院内のどこでも見れるようになる予定だよ。





に行ってみよう。





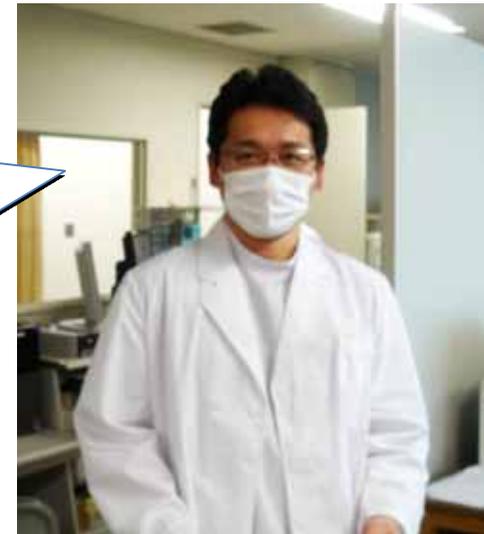
ここは、裏の通路だね。
検査に使う道具や薬剤を搬入するんだ。
に技師室と画像処理室があるよ。





画像処理室

画像処理室には画像サーバーと呼ばれるハードディスク
があって、撮影された画像はここに保存されるんだ。
そして、院内の各端末へ配信されるんだよ。



愛知県がんセンター中央病院



は知ってるかな？





ここにはトイレと回復室があって、外来
や検査で気分が悪くなった患者さんが
休めるようにしてあるんだ。



私たちが対応しますので、
安心して下さい。

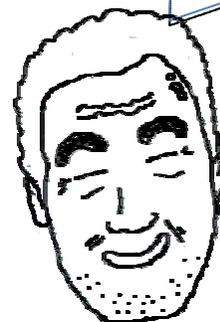




は透視室だよ。
午前中は、胃や大腸のバリウム検査。
午後は、非血管系IVRと呼ばれる、画像
誘導下の特殊検査が行われているよ。



医師、技師、看護師が協力して、
検査や処置を進めています。





は血管造影室。アンギオ室とも言うよ。
血管系IVRと呼ばれる処置を行うところで、IVR-CTという、
血管造影装置とCT装置を合体させた装置が2台あるんだ。
IVR-CTは、東芝の協力のもとここで開発されて、世界の
第一号機がこの部屋にあったんだって。





番はCT検査室だね。
あれっ、さっき透視室で働いて
いた技師さんと同じ人だ。



CT装置が2台稼働しています。
CT検査は、休みの日でも緊急で撮影する事があるから、
放射線技師は全員、操作できる必要があるんだよ。

上の技師さんは3月で定年退職だけど、最新の
装置もバリバリ動かすよ。体はバキバキだけどね。

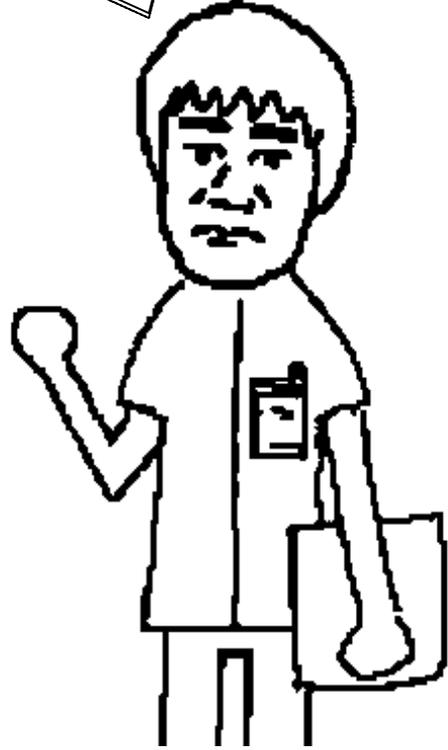


愛知県がんセンター中央病院





最後は の扉…って、
これ、非常口じゃん。





非常時はここから避難してね。



やべっ。
怒られそうだから避難するね。
バイバイ！

